

## 『Antitled』執筆要綱

### (1)分量

表題、執筆者名、引用、参考文献などすべてを含めて、論文・研究ノートの場合は32000字以内、書評・その他の原稿については12000字以内とする。史資料紹介については執筆者と本誌編集委員会のあいだで協議のうえ、上限を定める。

図・表・写真は文字数に含めない。

### (2)書式・体裁

・原稿の書式・体裁は原則として以下のようにする。ただし史資料紹介の場合は執筆者と本誌編集委員会のあいだで協議のうえ、変更することができる。

・A4判・横書き・40字×30行とし、表題は中央揃え・太字16ポイント、章・節のタイトルは左揃え・太字10.5ポイント、本文・脚注・参考文献は左揃え・10.5ポイントとする。フォントはBIZ UD明朝 Mediumを用いること。

・執筆者名は原稿に記載しないこと。

・本文の前に章立てを記載すること。

・段落の始まりはインデントすること。

・原稿への図、表、写真の挿入は執筆者自身が行う。コピーライトについては執筆者の責任において得るものとする。

・査読の公平性を保つため、引用・参考文献を挙げる際に「拙著」「拙稿」など執筆者の特定につながる語を用いないようにすること。

### (3)表記

表記については以下の原則に従い、統一を図ること。ただし引用や参考文献の表記においては上記の限りではない。

・原稿の使用言語は原則として日本語(常用漢字・新仮名遣い)に限る。句読点は「、」「。」を用いる。

・年号は、西暦を用いる。和暦を用いる場合も、嘉永6(1853)年のように、西暦を併記する。但し、同じ年が頻出する場合には西暦の併記を省略してもよい。

・外国の国名・用語・固有名詞等の表記については、原則としてカタカナ表記とするが、アルファベットでの表記および併記も妨げない。

・本文中の数字の表記は、原則として算用数字とするが、万・億・兆などの単位語を用いることは妨げない。

### (4)引用

・引用に際しては、出典を明記すること。

- ・長文を引用する際は前後の文章と1行空け、引用文の全体を2字分インデントすること。
- ・外国語を引用する際には、訳文を併記すること。訳文のみの引用も妨げないが、その旨を注記すること。

#### (5) 脚注および引用・参考文献

- ・脚注は各ページの下部に表示する。脚注の番号書式は半角数字を用いること。
- ・引用・参考文献の表記はハーバード方式を用いる。本文および脚注において引用・参考文献を指示する場合は、(著者名,出版年,p.10(もしくはpp.10-11))という形で表記し、文末に引用・参考文献の一覧を並べる。
- ・引用・参考文献の一覧は、言語別に区分したうえで、著者名のアルファベット順に並べる。同一著者による文献は出版年が早い順に並べる。
- ・引用・参考文献の一覧において各文献の著者名・発行年・書名・出版社名などの情報をどのような順番や表記で記載するかについては、各執筆者の判断に委ねる。
- ・著者が3人以上の文献については、筆頭の著者名のみを挙げ、○○ほか、とする。
- ・特殊な古典資料については、執筆者の判断で所蔵先など必要な情報を記載すること。